

# 公の施設の指定管理者における業務状況評価

平成28年9月15日

|     |     |     |            |
|-----|-----|-----|------------|
| 施設名 | 美術館 | 所管課 | 文化生活部文化推進課 |
|-----|-----|-----|------------|

## 1 施設の概要

|        |  |           |                      |
|--------|--|-----------|----------------------|
| 指定管理者名 | (公財)高知県文化財団  | 指定期間      | 平成26年4月1日～平成31年3月31日 |
| 施設所在地  | 高知市高須353番地2  |           |                      |
| 事業内容   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・美術品及び美術に関する資料の収集、保管及び展示</li> <li>・美術に関する専門的な調査研究</li> <li>・美術に関する講演会、講習会、研究会等の教育普及活動</li> <li>・美術品等の展示のための県民ギャラリーの提供</li> <li>・音楽、演劇等の鑑賞のためのホールの提供</li> <li>・上記のほか、美術館の設置の目的を達成するために必要な業務</li> </ul>   |           |                      |
| 施設内容   | <p>&lt;建物&gt; 延床面積4527.47㎡ RC造地上3階建</p> <p>&lt;建物&gt; 延べ床面積:117,723㎡ 鉄骨鉄筋コンクリート造地上3階建</p> <p>&lt;土地&gt; 19,574㎡ 駐車場 144台</p> <p>&lt;主要施設&gt; 常設展示室、企画展示室、石元泰博展示室、県民ギャラリー、講義室、創作室、ミュージアムショップ、レストラン、美術館ホール(399席)など</p> <p>&lt;開館時間&gt; 午前9時～午後5時(ホール、リハーサル室及び楽屋は午前9時～午後10時)</p> <p>&lt;休館日&gt; 12月27日～1月1日</p> <p>&lt;主な料金&gt; 常設展 一般360円・大学生250円</p> <p>※高校生以下、高知県長寿手帳(65歳以上)、身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、戦傷病者手帳、被爆者健康手帳を所持する者と介護又は介助者1名、高知市長寿手帳を所持する者は無料</p> <p>施設利用料 県民ギャラリー21,830円(1日)、企画展示室54,620円(1日) ホール1日39,170～47,210円</p> |           |                      |
| 職員体制   | 常勤職員: 15人  | 契約職員: 14人 | 合計: 29人              |

※職員数は平成27年4月1日現在

## 2 収支の状況

単位:千円

|             |         | 平成26年度(決算) | 平成27年度(決算) | 平成28年度(予算) |
|-------------|---------|------------|------------|------------|
| 収入          | 県支出金    | 326,169    | 344,823    | 341,139    |
|             | 事業収入    | 27,206     | 59,888     | 83,482     |
|             | その他     | 16,065     | 55,058     | 204        |
|             | 収入計     | 369,440    | 459,769    | 424,825    |
| 支出          | 事業費     | 369,440    | 459,769    | 424,825    |
|             | (うち人件費) | (126,816)  | (173,819)  | (138,558)  |
|             | その他     | 0          | 0          | 0          |
|             | 支出計     | 369,440    | 459,769    | 424,825    |
| 収支差額(a)-(b) |         | 0          | 0          | 0          |

## 3 利用状況

|   |         | 平成26年度(実績) |         | 平成27年度(実績) |           | 前年度比較 |
|---|---------|------------|---------|------------|-----------|-------|
| ① 年間利用者数 合計<br>(単位:人)   | 常設展     | 5,303人     | 常設展     | 6,885人     | + 1,582人  |       |
|   | 企画展     | 24,443人    | 企画展     | 59,889人    | + 35,446人 |       |
|   | 美術館ホール  | 2,626人     | 美術館ホール  | 3,733人     | + 1,107人  |       |
|   | 小計      | 32,372人    | 小計      | 70,507人    | + 38,135人 |       |
|   | 貸館      | 40,552人    | 貸館      | 28,967人    | - 11,585人 |       |
|   | 貸館(ホール) | 30,854人    | 貸館(ホール) | 39,141人    | + 8,287人  |       |
|   | 県民ギャラリー | 60,471人    | 県民ギャラリー | 48,584人    | - 11,887人 |       |
|   | 小計      | 131,877人   | 小計      | 116,692人   | - 15,185人 |       |
|   | 合計      | 164,249人   | 合計      | 187,199人   | + 22,950人 |       |
| <p>&lt;利用実績&gt;</p> <p>・常設展及び企画展の観覧者総数は66,774人で、年平均5万人の目標値を大きく上回る観覧者数を得られた(達成率約134%)。</p> |         |            |         |            |           |       |

|             |  |
|-------------|--|
| ② 利用者意見等の反映 | <p>○ 利用者アンケート等の実施状況(時期・方法・回答数・調査結果等)</p> <p>展覧会にあつては企画展ごと(年4回、回収4,791件、回収率8%)、ホール事業にあつては催事ごと(回収13,699件、回収率35%)に利用者満足度等のアンケートを実施した。</p> |
|             | <p>○ 利用者意見等を踏まえた対策</p> <p>来館記念スタンプを作成し、エントランスに設置した。</p>  |
|             | <p>○ その他</p> <p>平成28年度からは、従来のアンケートのほかに、利用者の声を恒常的に聞く据置型のアンケートを開始した。</p>   |
| ③ その他特記事項   |  |

#### 4 県の要求水準に対する評価

優れた芸術の魅力を伝えるとともに、独自のコレクションを後世に伝える

要求水準－収集・保存

収集方針に基づき資料を収集し、適切な保存・管理を行う

評価項目 (1) 本県出身の作家を中心として、特色ある資料の充実に努める

#### 状 況 説 明

高知県ゆかりの作家の作品及び補助資料という収集方針に照らし合わせて、以下の作品計6点(総評価額5,900,000円)の寄贈を受けた。

- ・正延正俊の作品：須崎市生まれで世界的に有名な「具体美術協会」の創立メンバーとして活躍した高知ゆかりの正延正俊の代表的な作品5点の寄贈を受け、既収蔵の2点と合わせ正延の画業の変遷をたどることのできるコレクションを形成することができた。

- ・篠山紀信の作品：故石元泰博夫妻をモデルにした肖像写真の寄贈を受けたものであり、石元泰博フォトセンターの活動において活用できる。

| 評 価 | 理 由  |
|-----|--|
| A   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・県立美術館の収集方針に即した作家の代表作や展覧会出品歴のある優れた作品を厳選して寄贈収集することができた。</li> <li>・正延正俊と篠山紀信の作品の寄贈は、個展開催の準備を通じ作家等との間に築き上げた信頼関係の賜物であり、地道な調査研究活動の成果が実を結んでいる。</li> </ul> |

評価項目 (2) 資料の整理・分類、点検・劣化防止等の処置を適切に行う

状 況 説 明

- 1) 収蔵庫
  - ・24時間の空調を行い、美術資料の適切な保存管理に努めている。新収蔵作品を含む収蔵資料は適切に整理・分類・点検を行っている。
  - ・平成27年4月に県から資料の適切な整理等について徹底する旨の通知を受け、資料の収蔵庫内の所在を確認するための悉皆調査を開始、以後定期的に点検を行っている。
- 2) 石元泰博フォトセンター
  - ・監視カメラで24時間の警備を行い、セキュリティ確保に努めている。30,000点を超えるプリントは収蔵庫で、約15万点のフィルムは専用の保管室で計画的に整理・保存を行っている。
- 3) 展示室
  - ・すべての展示室に暗視カメラを含む監視カメラを配し、24時間警備を行い、その映像は一定期間保存をしている。
- 4) 書庫・アート情報コーナー
  - ・昨年度開設したアート情報コーナーで書籍や図録、雑誌などを公開し、企画展に関連した資料の特集コーナーを設けるなど、国内外のアート情報の発信に努め、端末PCで石元泰博の作品画像の一部公開等も行った。
  - ・旧ライブラリーの蔵書の移管、台帳更新などの整理作業を継続した。
- 5) その他
  - ・全国美術館会議の保存研究部会への参加や文化財虫害研究所が認定する文化財IPMコーディネータ資格を取得するなど、学芸員の保存科学に関する資質向上に努めた。

| 評 価 | 理 由   |
|-----|---|
| B   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・展示作品の状態に合わせて、適宜専門機関と調整し保存環境の維持向上に努めた。</li> <li>・石元フォトセンター資料を含む収蔵資料についても、適切な整理・分類・点検・保存が行われている。</li> </ul> |

要求水準－調査・研究

収蔵資料の調査研究を進め、その成果を公開する

評価項目 (1) 職員の専門性の向上を図るとともに、調査研究の成果を、資料の公開や図録・記録集の作成等により、広く発信する

状況説明

1) 調査・研究会等

- ・全国美術館会議において、保存研究部会、教育研究部会、地域美術研究部会に各担当学芸員が所属し、各研究部会での会合を通じて活発に活動した。また、「CIMAM(国際美術館会議)2015年次総会東京大会」に学芸課長が招待参加し、報告書に寄稿した。
- ・2名の学芸員が県内の大学から依頼を受け、美術史や美術館学に関する講義を行った。
- ・明治学院大学からの依頼でドイツ版画に関するシンポジウム「創造・伝達・記憶の場としての版画」で学芸員が発表を行い、パネリストとして参加した。

2) 展覧会等

- ・「ゴー・ビトゥイーンズ:こどもを通して見る世界展」は、森美術館を中心に全国の4美術館で共同企画・開催したもので、その研究の成果を図録に総集した。
- ・「没後20年 具体の画家—正延正俊」は、生誕の地である高知県の当館と、活動の拠点となった西宮市の大谷記念美術館による共同企画展で、それぞれの綿密な調査による論考は図録で発表した。
- ・コレクション展では、「20世紀末の美術」、「版画作品を中心に」、「没後50年「山本昇雲展」、「かたちのリズム」、「石元泰博写真展」、「シャガール・コレクション展」を開催し、それぞれの地道な調査・研究の成果を会場内での解説パネルやパンフレット等で提示した。
- ・インドネシアからペーパームーン・パペット・シアターのディレクター、マリア・トリ・スリスチャニと芸術監督のイワン・エフェンディを招聘し、創作、ワークショップ、新作公演を行い、報告書を作成した。

3) 海外での調査

- ・28年度の企画展準備として、「大原治雄写真展」の担当学芸員がブラジルで現地調査を行った。
- ・石元泰博の基礎調査として、担当学芸員がニューヨークで写真家マーヴィン・ニューマン氏(石元氏の学友)にインタビューを行った。併せて石元氏の作品を収蔵するヒューストン美術館で調査も行った。
- ・フィンランドセンターの招待でフィンランド各地の芸術祭やレジデンス施設の調査を行った。

| 評価 | 理由   |
|----|--|
| A  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・専門分野に合わせた研修や研究会等への参加を積極的に実施し、資質の向上、人脈づくりに努力が認められる。</li> <li>・調査研究について、他館との協力体制の構築の努力が実っている。</li> <li>・積極的に海外において調査を行う等、国際的な調査研究を推進している。</li> </ul> |

状 況 説 明

石元泰博展示室での通年展示、フィルム保管室でのフィルム管理等、深める(保存管理、調査研究、収集)、広める(展示公開、著作権管理)、つなぐ(教育・普及)という三つの活動をそれぞれ本格的に展開した。石元泰博フォトセンターや著作権を高知県が保持していることについての周知が進んだ。

1) 「深める」活動

- ・石元泰博関係の掲載記事の確認を引き続き行い、約40件の関連記事を複写収集した。
- ・アメリカにて石元氏旧友・写真家のニューマン氏、東京にて写真評論家福島辰夫氏への聞き取り調査、ニューヨーク近代美術館で石元氏関連資料の調査を行った。
- ・篠山紀信展で同氏が撮影した石元夫妻のポートレートを特別出品いただき、寄贈を受けた。

2) 「広める」活動

- ・石元泰博展示室では、「こども」「ビーチ」「ポートレート」をテーマに、通年で6回の石元コレクション展を開催し、計213点の作品を紹介した。
- ・展覧会ごとにパンフレットを作成し、来場者に配布した。展示室内用タブレットでは1,418点、アート情報コーナー専用の端末PCでは約17,000件の画像公開を行った。
- ・著作権許諾については、適切な管理と運用を行い、39件の相談のうち19件を許諾した。
- ・『石元泰博コレクション「桂、伊勢」(館像品目録)』の在庫が僅少となったため500部を増刷した。
- ・ヒューストン美術館セミナー参加、ニューヨーク・アートフェアを視察するなど、関係者との交流及び周知活動に努めた。また、東京都写真美術館からの視察、早稲田大学院生の調査を受け入れた。
- ・当館コレクションで構成される「Yasuhiro Ishimoto: Bilingual Photography and the Architecture of Greene & Greene」(ハンティントン・ライブラリー、アメリカH28.6/18~10/3)の調査準備に協力した。

3) 「つなぐ」活動

- ・石元氏の母校・土佐市立高岡第二小学校3年生、高石小学校3年生、新居小学校3・4年生計37人を対象に、学芸員による事前授業を行ったうえ貸し切りバスを使って当館に招待、実作品を鑑賞するプロジェクトを「スクール・プログラム」事業の一環として行った。
- ・土佐市の地域祭「山の手ふれあいフェスタ」への石元泰博コーナー展示、土佐市広報誌への情報提供などを行い、石元氏の故郷とのつながりをより深めていった。
- ・これらの取り組みを基に土佐市教育委員会と相互に連携し、地域の活性化と美術振興に寄与するための協定を結ぶ準備を進めた(平成28年度締結予定)。
- ・専用ウェブサイトをリニューアルし、ページビュー数が増加した(3割が海外からの閲覧)。

| 評 価 | 理 由   |
|-----|---|
| A   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・石元作品の魅力を十分に発揮した内容の展覧会を実施し、一年を通じてテーマを定めた利活用の展開ができている。</li> <li>・フォトセンターの活動の3つの柱をそれぞれ着実に遂行し成果を上げていると評価できる。</li> </ul> |

要求水準－展示・公開

質の高い、優れた芸術に触れる機会を提供し、芸術や文化に対する関心を深める

評価項目 (1) 世界有数のシャガールコレクションの展示など、質の高い魅力的な常設展・企画展を開催し、5年間で25万人以上の観覧者を目指す

状況説明

平成27年度の常設展・企画展の入館者数は66,774人となり、年間目標5万人を大きく上回った。

①シャガール・コレクション展

「遙かなる故郷」をテーマにシャガールのユダヤ人としての民族性とロシア人としての国民性への考察を促した。(6回で総出品数182点)

②石元泰博コレクション展

「こども」、「ビーチ」、「ポートレート」の3テーマに作品を展示した。(6回で総出品数213点)

③コレクション・テーマ展「館蔵名品展 Part I 20世紀末の美術、Part II 版画作品を中心に」

1980年代の「新表現主義」を中心とする作品群を展示し、併せて本県出身のアーティスト岡上淑子のコラージュ作品を特集展示した。(総出品数33点)

版画のアンソロジー《「世界の医療団」のための版画集》を中心に、日和崎尊夫、土方久功などの作品を併せて展示した。(総出品数50点)

④コレクション・テーマ展「没後50年 山本昇雲展」

没後50年を記念し、画業の全貌を紹介した。併せて新収蔵品を公開した。(総出品数82点)

⑤コレクション・テーマ展「かたちのリズム—抽象表現のいろいろ」

抽象絵画の様々な展開の過程を時系列に沿って紹介し、そのダイナミックな変容を明らかにした。(総出品数50点)

⑥企画展「ゴー・ビトゥイーンズ： こどもを通して見る世界」

異なる国や文化、現実と想像の世界などの境界を越える子供の姿に焦点をあて、世界各国の魅力的な現代アート作品を紹介した。全国4美術館での共同企画

⑦企画展「没後20年 具体の画家—正延正俊」

須崎市に生まれ国際的に評価される正延正俊の全貌を紹介した。西宮市大谷記念美術館との共同企画(総出品数66点)

⑧企画展「篠山紀信展 写真力」

写真家・篠山紀信の軌跡をポートレートに特化して紹介した。高知でのオリジナル企画として安藤桃子氏や故石元泰博夫妻のポートレートも展示した。(総出品数約100点)

⑨企画展「マリメッコ展—デザイン、ファブリック、ライフスタイル」

フィンランドを代表するデザインハウス、マリメッコの全貌を紹介する展覧会。企画、広報とも成果を挙げ、目標の2倍の来場者数を獲得した。(総出品数 約200点)

| 評価 | 理由  |
|----|---|
| A  | <p>・現代美術、近代日本画、写真、デザインと多岐にわたる、かつ、バランスのとれた企画をしており、来館者を飽きさせないラインナップを提供していることは評価できる。</p> <p>・「篠山紀信展」や「マリメッコ展」では、利用者のニーズ把握や広報計画を立てて的確な企画・広報戦略を実施し、多くの集客につなげることができている。</p> |

状況説明

- ①ペーパームーン・パペット・シアター アーティスト・イン・レジデンス&公演「HIDE-AND-SEEK かくれんぼ」 ワークショップ1回 4公演  
初のインドネシアのカンパニーによる滞在制作及び公演。作品制作は、館の展示室で一般公開のもと行われ(入場無料)、期間中、子どもを含む多くの来場者と交流が図られた。(来場者1,824人)
- ②海外招聘公演カンパニー マリー・シュイナル公演「春の祭典」「アンリ・ミショーのムーヴマン」&ソロ公演「イン・ミュージアム」1公演、ソロ1公演ワークショップ1回  
世界的に評価の高いカナダのダンスカンパニーの公演を招聘。交流参加型の公演は、人が自由に行き交うギャラリーで開催し、当館の施設の特徴を活かしつつ、芸術の新しい形を提示した。
- ③川村美紀子新作ダンス公演 開館記念日パフォーマンス1回 ソロ1公演  
現在最も注目されている若手ダンサーの新作を上演。制作に当たり、ダンサーが当館や高知の自然に触れて構想を練った。開館記念日に当館の中庭を舞台として公演し、来館者に魅力を伝えた。
- ④ネジラ・ヤトキン&エンキ・アンドリュース「ダンシング・アラウンド・ワールド」アーティスト・イン・レジデンス ワークショップ&公演1公演  
約2週間の滞在中、小学生から50代まで幅広い層がワークショップに参加。作品を練り上げ、最後に当館の回廊や中庭で発表を行った。撮影された桂浜、竹林寺や当館が映る高知の映像は、インターネットを通じて全世界に発信された。
- ⑤定期上映会(春夏秋冬)8日間計16本上映  
春はゴー・ビトゥーンズ展に関連した日本と海外の子供をテーマにした映画、夏はゴジラ復活に合わせた怪獣映画特集(日本)、秋は篠山紀信展に合わせたアイドル映画、冬はマリメッコ展に関連したフィンランドの映画監督アキ・カウリスマキ映画特集と4回の定期上映会を行った。
- ⑥共催事業 CO. 山田うん「結婚」「日本の3つの抒情詩」「春の祭典」1公演  
芸術選奨文部科学大臣新人賞を受賞した山田うんダンス3作品の公演を行った。また公演に先立ちダンスワークショップを開催し21名が参加した。
- ⑦共催事業 アンドロイド演劇「さようなら」とロボットワークショップ3公演  
東京藝術大学等との連携企画により、アンドロイドと人間が共演する作品を上演した。終演後、作・演出の平田オリザと東京藝術大学の力石武信氏によるロボットワークショップも行った。
- ⑧共催事業 石橋義正 & 川口ゆい「マッチャトリア」4公演  
世界で注目されている最新の3D映像を使ったダンス公演を行った。観客はダンサーの心音が伝わる「心臓ボックス」を各自が持ち、リアルにダンスを感じることができた。
- ⑨「四万十川国際映画祭」他、メイン上映会を共催するなど、地域の芸術文化活動の発展に貢献した。

| 評 価 | 理 由   |
|-----|---|
| A   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・美術館に併設されている利点を活かし、多彩な舞台芸術を県民に提供した。また、展覧会との関連事業をホールで行い、展覧会の多角的な観賞につなげることができている。</li> <li>・公演を単に観賞するだけでなく、ワークショップを行うことで、県民に直接舞台芸術に触れ体験する機会を設けることができている。</li> <li>・世界の舞台芸術の招聘公演、館からの世界への発信等、活動の中で培ってきた成果が実り活かされている。</li> </ul> |

評価項目 (3) 講演会やギャラリートークの実施など、来館者の芸術や文化への理解を深めるためのサービスを充実させる

状況説明

1) ギャラリートーク

企画展・常設展では、展覧会及び作品への理解を深めていただくため、学芸員及び解説補助員により、工夫をこらした作品解説を定期的に行った。

2) 講演会等

展覧会では、作家や作品内容に多角的な視点でより理解を深めていただくために、作家本人や研究者、美術館関係者を招いて講演会、レクチャー等を開催した。

・「ゴー・ビトゥイーンズ展」：「高知の“ゴー・ビトゥイーンズ”戦前のブラジル移民の記憶から」と題する講演(参加者32人)、「『子どもを撮る』ということ」と題する講演(参加者63人)、「『みる』を楽しむ子どもたち」と題する講演(参加者60人)、「はざまを生きる、文化をつなぐ“ゴー・ビトゥイーンズ”としての在日コリアン」と題するトークセッションを行った。(参加者33人)

・「正延正俊展」：「前衛を目指した高知の画家」と題する講演(参加者15人)

・「篠山紀信展」：篠山紀信氏、京都造形芸術大学教授の後藤繁雄氏、映画監督の安藤桃子氏で大規模なトークショーを開催(参加者399人)

・「マリメッコ展」：「北欧のテキスタイルと私の仕事」と題する講演(参加者140人)

3) ワークショップ等

・「ゴー・ビトゥイーンズ展」：「スプーン曲げを教える」と題する子ども向けのワークショップ(参加者11人)

・「正延正俊展」：「手を動かすことで見えてくる世界」と題する中学3年生以上向けのワークショップ(参加者10人)

・「マリメッコ展」：「フィンランドの伝統装飾『ヒンメリ』をつくる」と題するワークショップ(参加者58人)、「オリジナルパターンで染める素敵な布」と題するワークショップ(参加者40人)

・「ペーパームーン・パペット・シアター」：想像上の生き物を作るワークショップ(参加者71人)

・カンパニー・マリー・シュイナールの公演：中級レベル以上のダンス経験者を対象としたワークショップ(参加者16人)、終演後には、アフタートークを実施(参加者230人)

・「ダンシング・アラウンド・ザ・ワールド」：人、ムーヴメント、環境の相互作用について探求するワークショップを行った(参加者延べ152人)

・共催事業Co.山田うん「春の祭典」：振付を体験するワークショップ(参加者21人)

・アンドロイド演劇「さようなら」：ワークショップを兼ねたアフタートークを行った(参加者320人)

| 評価 | 理由  |
|----|---|
| A  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的にギャラリートークを行い、来館者サービスの向上に努力が認められる。</li> <li>・企画展に併せた講演を開催し、より一層理解を深められる機会を設けている。</li> <li>・ホール事業においてもワークショップ等を組み入れ、イベントの多角的、多面的な理解の促進に努めている。</li> </ul> |

要求水準－教育・普及

様々な年代を対象とした教育・普及活動を行う

評価項目 (1) 学校や関係機関と連携を図り、子どもたちの芸術や文化に触れる機会を充実させる

状況説明

学校と美術館の各種連携事業を「スクール・プログラム」として一つにまとめ、より積極的、計画的に展開するとともに、それらの成果を報告書としてとりまとめた。

1) 調査

- ・27年度は東部エリアを重点地域に設定、各教育委員会に案内を行った。
- ・教員対象の研究会等の受入を積極的に行った。また、県内公立小・中学校に美術館利用についてのアンケート調査を実施し、現場に即したプログラムやシステムの構築を目指した。

2) プログラム

① 出前びじゅつ講座

- ・来館前の事前学習を中学校2校で実施。また、図工・美術の授業の一環として(2校)、学芸員の仕事を紹介するキャリア教育として(1校)等、学校のニーズに応じたプログラムを試みた。
- ・「石元泰博フォトセンター」ではゆかりの地である土佐市内の小学校4校で、3年生を対象に学芸員が来館前の事前学習として本講座を行った。

② 出前クラシック講座

- ・県内で活動している音楽家グループのメンバーを小中学校に派遣し、学校という身近な場所で、楽器の仕組みなどを紹介しながら本物の音楽に触れる機会を作った(中学校計7校で延べ10回実施)。

③ 団体利用

- ・学校等各種団体からの団体見学、施設見学、レクチャーなどの依頼を積極的に受入れた。(小中高等延べ45件1,873人、保育園児153人)

④ ミュージアムバス・ツアー(バス支援事業)

- ・平成28年度からの本格展開に向け、申込方法やガイドライン等のシステムづくりを進めた。(小中計5校利用)

⑤ ティーチャーズ・デイ

- ・当館主催の企画展等に、県内教職員を無料招待する事業を5回開催した。

3) その他

- ・高知医療学院との連携による定期上映会の学生鑑賞を実施。四国学院大学との共催でアンドロイド演劇を開催。博物館学芸員資格取得のための博物館実習では、高知大学等から15名を受入れた。
- ・安芸市、高知市、南国市、土佐市の教育研修部会図工・美術部会での教員向け講座に、教育普及担当学芸員を派遣、高知大学、高知県立大学に非常勤講師として、学芸員を派遣した。

| 評 価 | 理 由  |
|-----|--|
| A   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域に立脚した美術館として学校連携の重要性に改めて向き合うための調査や、館の連携事業を「スクール・プログラム」としてまとめ、地域や学校へ効果的なプログラムの周知を行う等、積極的な事業展開ができています。</li> <li>・大学との連携事業の実施等、会場の提供に留まらず、ワークショップ等を通しての作品理解や意見交換を行うなど、一歩進んだ取り組みができています。</li> </ul> |

評価項目 (2) 幅広い年代の方に、芸術や文化に親しむ機会を提供する

状況説明

1) 企画内容

展覧会では、異なる国や文化等、境界を超える子どもの姿に焦点を当てた現代アート作品を紹介する「ゴー・ビトゥーンズ:こどもを通して見る世界」、正延正俊の代表作を紹介する「没後20年具体の画家—正延正俊」、写真家・篠山紀信の作品を紹介する「篠山紀信展 写真力」、フィンランドのファッション企業「マリメッコ」の歩みをたどる「マリメッコ展 デザイン、ファブリック、ライフスタイル」を開催し、幅広い年代層や多様な嗜好を考慮した企画展を行った。

関連イベントでは、上映会3件延べ464名、講演会9件延べ776名が参加した。ワークショップの開催により新たな来場者獲得につながった。

ホール事業では、展覧会と関連付けた企画の実施。また、ホール事業でもワークショップを行い、参加者は小学生から50代までの幅広い層に及ぶ等、公演の多角的な観賞の機会を提供した。

2) 創作支援

芸術活動の発表の場として県民ギャラリー、美術館ホールの貸し出しを行った。(県民ギャラリー31件、美術館ホール220件)

3) さまざまなサービス

企画展でのギャラリートーク(作品解説)では、手話通訳、英語通訳つきの回を設定し、聴覚障害者や外国人にも展覧会に親しんでもらえる場を提供した。また、キャプションの文字をできるだけ大きくしたり、解説をわかりやすくしたり、難読の文字にはルビをふるなど、幅広い年代の鑑賞者に対するサービスを行った。また、子育て中の家族の利便を図るため、企画に合わせて無料で託児サービスを実施した(13回、託児35人)。

4) その他の取り組み

展覧会の入場料は、高校生以下を県内外とも無料、また65歳以上の高知県及び高知市の長寿手帳所持者を無料としており、若年層及び老年層の便宜を図っている。

開館記念日は、全展覧会を無料公開し、展示室でのスペシャル・ギャラリートーク、全国の美術館のポスターや図録の重複本の無料配布、中庭での川村美紀子による無料ダンス公演、カルチャー・サポーターによる工作教室、ホワイエでの軽食の出店等を行い、家族や親子連れでの鑑賞促進に努めた。

正月(1月2日、3日)の来場者を対象にポストカードや図録等を賞品とする新春福引大会、3日にはお琴と三味線の新春演奏会と、正月らしい企画で延べ2,202人の来場者を迎えた。

| 評価 | 理由  |
|----|---|
| A  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・幅広い層の利用者ニーズに合うよう、多彩な事業を実施している。</li> <li>・SNSを活用した情報提供を行う等、県内外から新しい来場者層の獲得に努めた。</li> </ul> |

評価項目 美術館活動に関する戦略的な情報発信により、県内外に館の魅力を広める

状 況 説 明

1) 広報戦略

月1回開催の広報部会及び館会議で広報の展開状況を検証するとともに、展覧会やホール事業ごとに、それぞれの特性を活かした独自の広報の可能性を検討し、実施した。

2) 情報発信

- ・新聞雑誌、県内外の情報誌、WEB媒体などに速やかに開催情報を提供し、掲載した。
- ・展覧会・ホール事業のチラシ、ポスターなどの広報物は、担当者がデザイナーと協議を重ね、洗練された広報媒体となるよう努めた。
- ・事業の内容に応じて、県内小・中学校の全児童・生徒へチラシを配布した。
- ・美術館年間スケジュールは、前年度の早い時期に制作し、配布した。
- ・年4回発行の美術館ニュース「ケンビレター」は、読み応えのあるものに工夫して作成した。
- ・県内メディアに働きかけ、テレビ・ラジオに積極的に出演して広報に努めた。
- ・ホームページ、フェイスブック、ツイッター、メールマガジンなど、最新の電子メディアによる発信に努めた。

3) 各事業での重点的な取り組み

- ・「ゴー・ビトゥーンズ」展では教育機関をターゲットに定め、県内の保育園や幼稚園、中四国地域で教育関係の学部がある大学へ印刷物を送付した。また、関連企画として出版社から出展作家等に関係する絵本を提供してもらい、展覧会を多角的に鑑賞する機会を提供した。
- ・「正延正俊」展では、作家の郷土の須崎市をターゲットに定め、須崎市役所や教育委員会、商店街等を中心に印刷物の配布や掲示依頼を行った。オープニングには、須崎市のマスコットキャラクター「しんじょう君」の来館等、新たな来場者層獲得に努めた。
- ・「篠山紀信」展では、印刷物とウェブ・デザインを同じデザイナーに依頼し、トータル・イメージづくりを図った。2種類（ジョン・レノン版、広末涼子版）で制作した広報物は、対象に応じて効果的に活用し、広末版で作成した帯屋町筋でのアーケード看板は、スマートフォン等で撮影された写真がSNSで拡散され評判をよんだ。高松駅及び松山駅でのポスター掲示、中四国内の大型ショッピングセンターでのデジタルサイネージ等、県外からの来場者獲得に努めた。
- ・「マリメッコ」展では、20代～30代をメインターゲットに中四国の駅構内でのポスター掲示、大型ショッピングセンターでのデジタルサイネージ、フリーペーパーの読者プレゼント等を効果的に活用。ファッション業界のウェブ・マガジンでも案内ができた。マリメッコ社の洋服での来場者の写真をSNSで紹介する「今日のマリメッコさん」はアクセスが多数あった。
- ・ペーパームーン・パペット・シアターでは、展示室での作品制作を、無料で一般公開したことやワークショップを開催したことで、幅広い層の来場につながった。
- ・カンパニー・マリー・シュイナル公演では、他の開催館と連携を取ることで単館では難しいダンス関係の雑誌等で広告を打つことができた。

| 評 価 | 理 由   |
|-----|---|
| A   | 事業ごとにターゲットを設定し、戦略的・計画的な情報発信に努めており、これまで少なかった若年層やファミリー層の来館者を多数得ることができている。 |

評価項目 県内外の他の博物館等と連携した事業の充実により、県民サービスの向上を図る

状 況 説 明

1) 共同企画

- ・「ゴー・ビトゥインズ」展は、森美術館、名古屋市美術館、沖縄県立博物館・美術館と、「具体の画家－正延正俊」展は西宮市立大谷記念美術館と共同企画を行った。
- ・「日本におけるキュビズム」展を28年度に共同開催すべく、鳥取県立博物館、埼玉県立近代美術館と内容等について検討・協議を行った。
- ・28年度開催の「大原治雄写真」展に向け「高知の移民文化発信プロジェクト－海を渡った高知スピリット」を立ち上げ、坂本龍馬記念館、自由民権記念館等県内外10館と共同し、チラシや冊子を発行した。また、牧野植物園、砂浜美術館等と連携し関連展示の準備を行った。

2) 作品の貸し出し

神奈川県立近代美術館、島根県立美術館等4館合同企画展にマルク・シャガールの版画104点を、香美市立美術館に竹村文男の油彩画3点を、福井県立美術館にシャガールの油彩画1点及び版画44点を貸し出すなど、県内外8館に合計154点を協力した。

3) 地域のネットワーク

- ・県内では、こうちミュージアムネットワーク、明治維新150年高知県ミュージアム連絡協議会等に参加し、連携を図った。
- ・県外では、四国美術館会議、四国地区博物館協議会等で報告や提案を行ったほか、中四国地区公立文化施設協議会に加盟し共同を促進させた。

4) 全国のネットワーク

全国美術館会議、美術館連絡協議会、日本博物館協会、全国公立文化施設協会、コミュニティーシネマセンター、ジャパン・コンテンポラリー・ダンス・ネットワーク、劇場・音楽堂等連絡協議会に加盟し、研究会や研修会への参加、情報交換、共同企画等を通じて地元還元に努めた。

5) ホール事業での取組

「ペーパームーン」公演では国際交流基金アジアセンターより、「カンパニーマリーシュイナル」公演ではケベック・アーツカウンシル、カナダ芸術評議会、モントリオール・アーツカウンシルより助成を受け、公演を充実させることが出来た。

6) 講師派遣等

高知県国際版画トリエンナーレ、九州国立博物館、北九州市立美術館等の外部委員を務めた。高知市文化財保護審議会委員、高知大学・高知県立大学非常勤講師、第19回高知県障害者美術展等の公募展審査員等を務めた。一般財団法人地域創造と共催で県内ミュージアムを対象に研修会を開催した。

| 評 価 | 理 由   |
|-----|---|
| A   | 県内外の美術館、ホール関係の施設や機関と緊密な関係を構築し、その蓄積による高いレベルの事業や資料の提供を通じて広く県民に還元しているとともに、県内外の他施設にも貢献していることが認められる。 |

要求水準－施設管理

施設及び設備の適切な保守管理をとおして、故障や事故のない運営を行う

評価項目

|                |          |   |
|----------------|----------|---|
| (1) 適切な管理運営の確保 | 社会的責任    | ・法令等の遵守 ・個人情報、情報公開の状況                   |
|                | 建物や設備の管理 | ・点検、修繕の実績 ・業務委託の状況                      |
|                | 危機管理     | ・風水害、火災、地震、盗難等危機管理対策<br>・マニュアルの作成 ・職員研修 |

状況説明

- 1) 社会的責任
  - ・高知県立美術館の設置及び管理に関する条例並びに指定管理に関する協定等に基づき、適切な施設の管理運営に努めるとともに、専門業者へ委託した業務に関しても関連法規に沿った施設管理を徹底させた。
  - ・平成27年度中の美術館に関する開示請求は、なし。
  - ・個人情報については、高知県文化財団個人情報保護規定に基づき、収集、利用を適正に行い、利用目的の終了した個人情報は、焼却処分した。
  - ・保管の必要のない個人情報は、随時、裁断処理している。
  - ・職員のパソコンには、パスワードを設定し、定期的にパスワードを変更するとともに、館外への持ち出しは原則禁止、また、USB等は自宅に持ち帰らないことを徹底させている。
- 2) 建物や施設の管理
  - ・専門業者とも随時協議しながら、改修・更新の年次計画を策定している。経年劣化した設備の更新、危険個所の修繕を迅速かつ効果的に行った。(修繕 件数32件3,298千円)
  - ・施設の適切な管理運営のため、専門の技術者等を擁する民間会社に業務を委託した。(委託件数34件71,367千円)
- 3) 危機管理
  - ・館職員で構成する危機管理部会を中心に「消防計画」「災害対策マニュアル」等の改定に向けた協議を行うとともに、館内に常駐している管理業務委託会社の従業員も参加して、火災発生時の消火、避難誘導訓練を実施した(平成27年9月、平成28年3月)。
  - ・職員通用口等で入館者の出入りを管理し、不審者の侵入を防止した。また、搬入口の2重シャッターは、搬入口使用マニュアルに沿って、職員の許可を得て開閉することとし、不審者の侵入防止と、外気、風雨の侵入抑制を図った。

| 評価 | 理由                   |
|----|----------------------|
| B  | 適正な管理運営が遂行されたと認められる。 |

| 評価項目             |  |
|------------------|--|
| (2) 利用者サービスの維持向上 | ・利用者の意見の反映、自己点検、評価の状況<br>・事故、クレームへの対応<br>・職員の専門性の向上・研修の実施状況・その他サービス向上の取り組み |

| 状況説明  |  |
|---|--|
| <p>1) 利用者の意見の反映<br/>           自主事業の内容・年間の組み合わせ等は、利用者の多様な意見を勘案しながら、長期的な視点で、総合的、計画的に決定している。<br/>           施設・設備のハード面での意見等は、緊急性・必要性を判断したうえで、必要なものから対応している。<br/>           日常の運営に関するソフト面での意見等については、速やかに組織内で共有し、対応策を決定することとしている。</p> <p>2) 自己点検・評価の状況<br/>           展覧会、ホール事業ごとの、アンケート調査を含む実施結果をもとに、館会議で問題点や改善策を協議確認し、その後の取り組みに反映した。<br/>           職員によるサービス部会を定期的を開催し、利用者の視点から課題の洗い出しや対策を検討し、館会議で議論したうえで、実践につなげた。</p> <p>3) 事故、クレームへの対応<br/>           クレーム、要望等については、速やかに対応、その状況を朝礼等で報告した。<br/>           事故に対しては、管理職に報告・相談しながら、速やかに対応した。</p> <p>4) 職員の専門性の向上・研修の実施状況<br/>           様々な機会をとらえて積極的に職員を参加させるとともに、新採職員については、3年計画でOJT研修を進め、資質の向上に努めた。<br/>           一般財団法人地域創造へ派遣(1年、学芸員1名)、文化財IPM資格取得研修(学芸員1名)、劇場・音楽堂等技術職員研修(1名)、アート・マネジメント研修(1名)、財団接遇研修(2名)、財団新採研修(1名)等</p> <p>5) その他サービス向上の取り組み<br/>           展覧会ごとに職員向けのギャラリートークを実施し、職員全体の展示作品や作家に対する知識の習得を図った。<br/>           平成27年3月末から休業していたレストランについては、運営を委託する事業者を一般公募したうえ、プロポーザル方式による審査にて決定し、9月25日から営業を再開した。</p> |  |

| 評価 | 理由                      |
|----|-------------------------|
| B  | 利用者サービスの維持向上に努めたと認められる。 |

| 評価項目     |         |          |
|----------|---------|----------|
| (3) 利用実績 | 利用実績の状況 | ・利用状況の分析 |

| 状況説明   |
|--|
| <p>1) 利用実績の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・展覧会観覧者数 66,774人(常設展 6,885人 企画展 59,889人)</li> <li>・美術館事業総利用者数193,854人(教育普及事業及びホール共催事業の6,655人を含む。)</li> </ul> <p>2) 利用状況の分析</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企画展については、県民の期待に応え、若い観客層の掘り起こしや新たなアートファンを創出する質の高い多様な展覧会の開催に向けて取り組むとともに、企画展ごとに広報のメインターゲットを設定したうえ、ホール事業とも連動させた効果的な情報発信を行った。</li> <li>・展覧会の観覧者数については、年平均5万人の目標値を大きく上回る観覧者数を得られた(達成率約134%)。</li> <li>・教育普及事業、美術館ホールの自主事業、県民ギャラリー等の貸館事業など展覧会以外の事業も含む美術館事業全体の総利用者数の目標値として、美術館独自に年間20万人を設定して取り組んだ結果、概ねこの目標値を満たす実績となっている(達成率約97%)。</li> </ul> |

| 評価 | 理由  |
|----|---|
| A  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・県民をはじめ利用者のニーズ、期待に応えられる多様な展覧会を開催し、年間の目標値を十分に達成した。</li> <li>・アンケート結果からは、県内外から幅広い世代の来館があり、満足度も高いと認められる。</li> </ul> |

| 評価項目      |      |            |            |
|-----------|------|------------|------------|
| (4) 収支の状況 | 経営努力 | ・収入増加の取り組み | ・経費削減の取り組み |

| 状況説明  |  |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・入念に計画・準備し、質の高い展覧会や公演を開催するよう努めている。</li> <li>・上質な企画展やホール公演を導入するため、国内外の美術館やホールをはじめとする関係団体や関係者との連携を強化し、情報収集に努めている。</li> <li>・広報部会を定期的を開催し、広報の展開状況を検証し、改善するとともに、展覧会やホール事業ごとに、それぞれの特性を活かした独自の広報を検討し、実施した。</li> <li>・テレビや新聞等の広報媒体を年代層に応じて活用した。さらにFacebookやツイッター、SNSによる情報発信に積極的に取り組んだ。</li> <li>・他の文化施設や企業(JAF等)と連携した利用料の一部減免やタウン誌への招待券提供により、効果的な誘客につなげた。</li> <li>・ホール事業を中心に国等の外部資金の獲得を図った。(文化庁、一般財団法人地域創造、日本芸術文化振興会、独立行政法人国際交流基金文化事業部、トヨタコレオグラフィアワード事務局、高知県教職員互助会 計6団体 総額19,141千円)</li> </ul> |  |

| 評価 | 理由                             |
|----|--------------------------------|
| A  | 積極的に外部資金を獲得するなど、取り組みに努力が認められる。 |

| 評 価 | 理 由   |
|-----|---|
| A   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・展示については、的確な広報戦略のもと、多彩かつバランスのとれた企画を提供されており、これまで少なかった若年層の入館者数が増えているなど、成果が表れていることは評価できる。</li> <li>・シャガールと石元泰博の二大コレクションが定着し、魅力を十分に発揮した展示が行われており、また、教育普及活動も着実に成果が上がっている。</li> <li>・ホール事業については、公演ごとにワークショップやアフタートークを行うほか、企画展との関連事業を実施するなど、イベントの多角的な理解の促進に努めている。また、海外の関係機関との共同制作等、地道な努力が実を結んでおり、評価できる。</li> <li>・職員の専門性、資質の向上のため、人材育成にも尽力し、アートの拠点として質の高い事業を提供できる体制が整っている。</li> </ul> <p>以上のことから、要求水準を上回る成果があり、優れた管理運営・事業の遂行がされたと認められる。</p> |

## 評価基準

- 「A」 要求水準を上回る成果があり、優れた管理運営・事業の遂行がされた。
- 「B」 概ね要求水準どおりであり、適正な管理運営・事業の遂行がされた。
- 「C」 要求水準に達しない面があり、改善のための工夫や努力が必要。
- 「D」 管理運営・事業の遂行が適正に行われたとはいえ、大いに改善を要する。